



常務理事会で遺族会が果たすべき責務、目指す事業等について語る水落会長=1月31日、九段会館テラスで

充強化が第1項目に掲げられた。そして、全支部においても、組織継承を第一に考え、具体策である「戦後80年に向けた組織継承3ヵ年計画」（以後継承計画）の確実な実行に向け組織一丸となつて取り組むことを共通認識とする事が確認された。

特別弔慰金（以後特弔）の継続と平和の語り部事業化が2本柱となる組織継承計画は、周知期間を終え、いよいよ実行期間に入る。

## 令和6年度恩給改定 24年振りの引上げ

# 令和6年度恩給改定

## 24年振りの引上げへ

は24年振りとなる。  
なお、恩給年額は、毎年度、国民年金の改定率により改定されていくが、国民年金が引き下げられる場合であっても、恩給は国家補償の性格を尊重する趣旨から引き下げられない仕組みとなつてい



青年部長会で挨拶する辻正人青年部長  
＝1月28日 九段会館テラスで

本会事業  
参加者の皆様へ

六

本会事業  
参加者の皆様へ

たものであり、造営会動の歴史の一歩である。戦後45万人といわれた戦没者の妻も、今や5,100人余といわれる。労多くして報われなかつた戦没者の妻が、日々安心して過ごせる国にするべく、遺族会も声を上げ、その記憶を次世代へ伝し続けなければならぬ。

常務理事会

# 令和6年度事業計画纏まる



令和6年2月15日  
第878号

一般財団法人日本遺族会  
〒107-0041 東京都千代田区  
九段南一丁目六番五号  
九段会館テラス四階  
電話 03-3261-5521  
振替 00160-6-25389  
編集発行人 盛川英治  
毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた  
英靈顯彰をはじめ、戦没者の遺族  
の福祉の増進、慰藉救済の道を開  
くと共に、道義の昂揚、品性の涵  
養に努め、世界の恒久平和の確立  
に寄与することを目的とする。

## 各部会議を相次いで開催

## 組織継承を第一に共有

29日には、女性部幹事会に先立ち、女性部正副部長並びに各ブロックの幹事が靖国神社に昇殿参

より、政府は、戦没者遺族に支給していた公務扶助料等を停止した。加えて戦没者を戦争犯罪に加へて懲罰する風潮が日本で見えた。

各地域の情報を収集し、適宜組織内外に広報活動により提供し、事業の推進を図る。

（例：慰靈碑の清掃、  
戰跡の案内）も多く、育  
成に時間を要する講話者  
に拘らないことで、多くの  
活動者を増やすことが  
平和について考える機会  
に寄与することとなると  
説明した。そして、各地  
域の情報を収集し、適宜  
組織内外に具体策も含め  
て掲載（

この他、英靈顯彰・戦没者遺族の待遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、収支予算書に対する説明等が行われ、承認された。

支給される恩給  
年額が、令和6年度から2・7%年引上げられることになった。実際に21年振りのベースアップで戦前、国家に一命を捧げた戦没者の遺族は「譽の家」として国から手厚い恩給が支給されていたが、昭和21年2月1日、GHQの占領政策に

声

支給される恩給額が、令和6年度から2・7%年引上げられ





# 昭和館開館25周年特別企画展

## 「昭和を駆け抜けた超特急」

昭和館は平成11年3月27日の開館から今年で25周年を迎える。これを記念し、令和6年3月9日から5月6日にかけて、開館25周年記念特別企画展として「昭和を駆け抜けた超特急『燕』（つばめ）」そして新幹線へを駆け抜けた超特急列車「燕」から昭和39年東海道新幹線の登場に至るまでの軌跡を紹介する。

昭和館では開館25周年へを開催する。この企画展では、昭和5年に登場した超特急「燕」から、昭和39年「夢像」資料を3部構成で紹介

する内容となっている。

「I 超特急『燕』の誕生」では、昭和4年に登場した愛称特急列車「富士」、「櫻」のほか、翌年に誕生した「燕」を中心、特急列車を取り上げ、「燕」の乗車券や、

「III 復興」「夢の超特急」への道」では、GHQの占領政策により

列車の写真や、物資不足から資材を節約して製造された鉄道車両の資料などが展示される。

「II 戦時体制と鉄道」とともに、鉄道も戦時体制へと組み込まれていく過程について、戦争の長期化とともに軍事輸送が優先され、特急列車も廃止され、その後、人々の鉄道利用が厳しく制限され、いくことを紹介し、出征

取組み。

1月13日、さくら市社会福祉協議会主催、さくら市遺族会等が協賛し、長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。

本作は、終戦末期の沖

縄で、激しい地上戦の中

を赴任した宇都宮市出身

の荒井退造沖縄県警察部

長と島田穂県知事との苦

絶

の悲惨さ、平和の尊さを考

える一作となっている。

本上映会は、同作製作

委員であり、沖縄在住の

高久健治氏の

尽力が大である。高久氏

は48年前に沖縄へ移住

し、

「I 超特急『燕』の誕生」

の映画が開催された。